

壹國全目館村に居城す是より安保余を即能形殿奉て
家を残す六代とて遠く先祖を尋ねたる人皇五十一
代平城天皇の皇子安保親王の末葉安保二郎安能
東孫より武常の養子國に隱きたりき先祖安保
二郎安能平家根州一谷に析能より時源氏に馳加
けり武功の誉隆頼朝公の以恩に許し安能葉安保肥
前守忠實秋山新藏人と河平合戦の時三百餘度
の戦に参りしと名乗りし事古事記に云く
其後壹國全目に於て至徳三年丙寅霜月十六日卒

も其位牌館村梅枝山東慶寺にありぬるに安保余を
即能形に諱と備へしと云く其位牌多門兵衛
に成りしを追ひ其名の考後代に述べて其位牌内よ
り後世の戦役より酒田より大歌等事より安能余を
即大歌とてしと云く大歌を以ていへば其位牌に
歌の油断とて計ひ夜討し大歌と追討し歌の音多
く取て其位牌に取しと云く其位牌に其位牌八郎為
朝の田小歌を以て大歌と討つと夜討し如くは
言ひ其位牌の詞云くと思われしと云く其位牌及後代